

酒田市総合計画審議会 第5回産業交流部会 議事要旨

1 日時

令和4年7月25日(月) 午後6時30分 から 午後8時00分

2 場所

酒田市役所本庁舎(3階) 第一・第二委員会室

3 出席者

【酒田市総合計画審議会委員 産業交流部会委員】

所 属	氏 名	備 考
酒田商工会議所 副会頭	西村 修	部会長
酒田青年会議所 監事	佐藤 愛	副部会長
株式会社良品計画 無印良品酒田POP-UP STORE店長	石田 佳奈子	
酒田市袖浦農業協同組合 理事参事	佐藤 久則	
連合山形酒田飽海地域協議会 幹事	佐藤 克	
庄内みどり農業協同組合 理事	高橋 身依	
酒田ふれあい商工会 会長	富樫 秀克	
山形県漁業協同組合 専務理事	西村 盛	
有限会社若葉旅館 専務取締役	矢野 慶汰	
The Hidden Japan 合同会社 代表	山科 沙織	

【事務局】

副市長、地域創生部長、地域創生部産業振興調整監、建設部長、農林水産部長、
上下水道部長、企画部長、企画部デジタル変革調整監、企画調整課長、企画調整課職員

4 開会

○事務局より会議の成立について報告

- ・本日の出席委員は10人であり委員定数12人の半数以上となっていることから、酒田市総合計画審議会条例施行規則第4条第2項の規定により、本日の会議は有効である。

5 あいさつ

【西村部会長】

世界情勢が混沌としてきているなか、この酒田市の総合計画が今までになく特に重要な計画になるのではないかと感じている。後ほど、スケジュールの説明があるが、いよいよ終盤、大詰めの部会となってきたので、本日も忌憚のない活発な意見をよろしく願います。

【矢口副市長】

西村部会長からもあったように、今後5年間の酒田市の指針となるような計画にしたいと思っているので、今しばらく、力添えをいただきたい。そのために、市役所の中でも、この総合計画に沿って毎年予算づけをできるような制度や、あるいは委員からも再三指摘があるように、重点項目があるのかということについて、今回は間に合わなかったが、行財政部会、審議会（全体会）においては重点項目を示せると思う。5年間の指針になる生きた計画になるようにしていきたいので、忌憚のない意見を願います。

6 議事内容

(1) 今後のスケジュールについて

- ・資料に沿って事務局（企画調整課長）より説明
- ・【今後のスケジュール】総合計画後期計画の策定について、当初7月までに答申、市議会9月定例会に議案として提案する予定である旨説明していたが、コロナ禍の中でも、より多くの方の意見を聞きながら丁寧に計画を策定するため、前期計画の策定時にはなかった「政策課題集」の策定とそのパブリックコメントの実施、小規模なグループミーティングの開催、今後、市議会との勉強会なども想定しているため、当初の予定より総合計画審議会の開催も遅れている状況である。現在のところは、市議会への提案を12月定例会とする方向で調整を進めている。委員には、10月の答申まで協力をお願いしたい。
- ・【酒田市まち・ひと・しごと 創生総合戦略の改訂】「総合戦略」については、今回、総合計

画後期計画の策定に合わせて改訂する旨説明していたが、令和4年6月に閣議決定された国のデジタル田園都市国家構想基本方針で、令和4年内を目途とする国のまち・ひと・しごと創生総合戦略の抜本的改訂と、それに基づき地方自治体は、地方版総合戦略の改訂に努めるよう示されたところ。国の方針に基づき、総合計画後期計画の策定にあわせた見直しは一旦見送り、国のまち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂内容を踏まえながら、総合戦略を改訂することとしたい。従って、現時点では来年9月にかけて改訂作業をしていきたい。委員には、戦略策定までということで委員を委嘱しているが、状況が変わったので、委員の委嘱は、総合計画策定までとさせてほしい。

(西村部会長) 今後のスケジュールについて説明があった。何か質問、確認しておきたい点はあるか。無いようなので、ただいまのスケジュールについて、承認いただけるか。

《一同同意》

(西村部会長) 次に進む。(2) 総合計画後期計画案について事務局より説明をお願いする。

- ・資料に沿って事務局(企画調整課長)より説明
- ・前回(6月20日)部会の意見、市内部(総合計画推進本部会議)で検討した結果を踏まえ、総合計画(後期計画)の原案を作成した。
- ・総合計画(後期計画)の柱立て【案】は新旧対照表で説明。
- ・総合計画(後期計画)【案】について、「2 基本構想」は、「(2) めざすまちの姿の実現に向けた目標設定」について、主に数字部分を時点修正。このうち、「②市民所得」は、7月末に山形県から最新の数値が公表されるので、それを踏まえて修正する予定。さらに、3つの目標の実績、進捗評価、それを踏まえた課題を追加記載する予定。修正・追加後の内容は、次の総合計画審議会(全体会)で示す。「3 行政経営方針」を掲載予定だが、記載内容を調整中であり、8月1日開催の「行財政部会」で意見をもらう予定。意見を踏まえ調整した「行政経営方針」は、次の総合計画審議会(全体会)で示す。13ページ以降には、政策の柱立て順に、「◆現状における課題(左側)」と「◆今後の方向性と主な施策(右側)」を記載し、前回部会からの変更部分は、アンダーラインを引いている。これまで空白だった資料の右上部分には、施策に紐づく成果指標、前期計画最終年(2022年)の目標値、前期計画4年目(2021年)の実績値、進捗状況の評価を新たに表として配置。
- ・本日は、「③今後の方向性、④主な施策、⑤成果指標」の部分が適切か、漏れはないか、新たに設定すべきものはないかという視点で意見ををお願いする。

(2) 総合計画(後期計画)【案】について

質疑・意見等

(委員) これまで協議をしてきたが、部会長が言ったように、ウクライナ、コロナ等今後を

左右する色々なことが起こっている。やはり気を引き締めていかななくてはいけないと資料を見ながら非常に強く思った。また、色々な組織から参加している我々にきちっと落とし込んで、官民共通のイメージの共有をしていきたいと思った。内容に関しては、特に不明な点、異論はない。

(委員) 計画の内容については特に(意見は)ない。この計画は当然カラーになると思うが、製本するのか。前期計画のようになるのか。資料を見るとパツとした華やかさが無い。酒田市のことなので、後で写真等を入れれば華やかになるんだろうと思う。そういうところに気を遣っていただきたい。例えば、隣の鶴岡や、山形県の他の人が見ても、立派なものを作っていると思ってもらえればいいのではないかと思った。

⇒(企画部長) 製本の関係は、前期計画は製本したが、昨今は印刷費の縮減の動きがあり、他に100以上の(市の個別)計画があるが、ほとんど製本していない状況である。デジタルで、ホームページにカラーで掲載し、それをカラーで印刷していただくと前期計画のようになる。製本はしないが、そのような形のものを考えているところである。

(委員) 製本しないということか。

⇒(企画部長) そのとおり。

(委員) 内容に関しては、よくできているので特に何も言うことはない。今後、予期しないことがどんどん起こっていくと思う。今は、農業のことに関しては、肥料の高騰等また変わってくると思うので、そういうものにも対応できるように書いてほしい。

⇒(農林水産部長) 委員が言うとおりのウクライナ情勢とか肥料高騰というようなことが出てきている中で、いわゆる短期的な部分については補正予算で、しっかり対応していく。後期計画に書かれる部分は、そのような情勢があるうとなかろうとしっかり取り組んでいかなければいけないことを委員に議論してもらったと思っている。新規就農等についても前回意見をもらった。しっかりと腰を据え、取り組めるような形で記載をした。

(委員) 前回、農業関係について少し話をした。40ページに記載があるが、我々現場で、本当に頭が痛いのは、経営を引き継ぐ親元就農であれば、最初に掛かる財産の必要性は何とかうまくいく。或いは、第三者の財産を引き継ぐ第三者承継でもなんとかなる。しかし、本当にたまにいる、まっさらの新規就農は、スタートから大赤字で、大借金から始まる。この負債の数字をなるべく減らして、物を借りるとか、そういった提案は途中から入った我々もしている。結局、今までの例でいうと、自己破産をしている人が何人もいる。そのような実態を考えると、アクションサポートチーム、サポートしていくチーム、要するに伴走型の取り組みをするのであれば、新規就農者を5年で何人というような頭数ではなく、定着率が必要だと思う。我々もどう定着させるかということ、最初に現場で考えるようになってきているが、そういう意味で、定着率という成果指標を持ってこれないだろうかというつも思う。5年後定着率、10年後定着率という、成果を確かめるのが、5年後10年後

になるので、目標に対する成果が見えるタイミングがずれるという問題がある。そのような統計的な問題、農業関係でこの定着率の目標を掲げているところをまず見たことがない。今言ったようなこの計画のずれや、進捗管理にずれがあって、なかなか管理しづらい、過去の統計が取りづらいということもあるだろうが、できれば、その辺を検討していただきたい。指標がない、できないとすれば、それはしょうがないが、アクションサポートチームのような取り組みをするのであればと思った。

⇒（農林水産部長）定着率については書きたいと思うが、現状としては、新規就農者数であっても、県から数字をもらっている状況。市はそれでしか把握できていない状況である。しかも、県の数字を精査すると、必ずしも毎年の新規就農者を全部把握し切れておらず、市町村、県、農協、農業士会から集めた情報を合わせており、その中には、少し前に就農した人もいるというような状態。可能であれば、そういった新規就農者たちが今、どうなっているのかを全部見られるようにしたい。そういった部分をアクションサポートチームが行う形にしていき、そこで継続的に追えるようにしたいと思っている。一方で、心配なのが、例えば5年間で100人新規就農という目標を掲げ、その人たちを何年追いつけるのかという点。5年追いつけるのであれば、それはすなわち100人をずっと管理し続けることになる。そうするとやはり、市だけでもできず、色々と組織立ってやらなければいけないので、チームを作って対応していかななくてはならない部分だと思っている。私の理想、個人的な思いだが、そのチームができて何年かした頃には、新規就農者数が毎年しっかり把握できて、そのあと何年後、どうなっているかを把握できるようにになれば、定着率をざっくりだが出せるようになるのではという期待を持っている。

（委員）第2章「地域経済が活性化して「働きたい」がかなう酒田」の34ページ、施策【新たな産業ビジネスの創出、商工業の競争力強化】の商店街の活動の指標、中心市街地商店街開業店舗数などを成果指標としている。方向性の中でも「デジタル化、商店街活動、創業、事業承継、販路開拓などの相談及び支援」とあった。気になるのが、開業ができて、閉店してしまう店もこのコロナ禍である。私が2021年の年末に移住してきてから、商店街の中で閉店をしている店舗を見てきた。こちらにも記載はあるが、開店した後のフォローを、しっかりとする体制を作っていくことが必要だと感じている。

38ページの施策【雇用のミスマッチ解消、地元定着の促進、高校教育機関等との連携】の施策として、「幅広い人材を確保しようとする中小企業等への支援」、「若年層特に女性に選ばれる企業の雇用環境づくりへの支援」とあるが、具体的な支援の方向性として提案したい。私が調べたデータが2017年で少し古いが、転職の際に、20代の人で57.4%、30代の人で58.8%の人が、転職サイトを使って転職をしている。求人を探す方法として、転職サイトを利用している人が多い。また、企業のホームページを確認しているという転職者は9割以上で、採用ホームページで情報収集をしている人は7割以上というデータがあった。若い人は、転職や就職をする際にそういったところから、情報を得るのではないかと考える。酒田市の中小企業がそのような転職サイトに、自分の会社情報を載せたり、自

分の会社のホームページを持っていて、採用のページを持っているのかが気になった。そのあたりの支援を強化していけば、若い人が地元酒田で就職する機会に繋がるかと感じている。

また、施策【働く女性の活躍促進、高齢者及び障がい者の就業機会の確保】で、追加された項目に「放課後デイサービスの充実」とある。多様化する需要に対応する保育というところで、放課後デイサービスが追加されているが、個人的に、ここに「子ども食堂」という文言を入れてはどうかと思っている。7月23日の日経新聞によると、子ども食堂が6,000箇所を超え、今、全国各地で急増している。その中の成果として、鳥取県の子ども食堂では、子どもとボランティアの信頼関係が強まったことで、家庭内で困っていることなどの本音を引き出し、直接的な世帯の支援に繋がったり、Uターン等で地域との関わりが乏しくなっていた母子世帯の母親が地域の住民との繋がりを育んだというケースも見られたということだった。酒田の子ども食堂の件数を調べたが、多く感じない件数だったため、「子ども食堂」という文言を入れてはどうかと考えた。

⇒（産業振興調整監）創業支援に関して、支援件数は年間30～40件で、そのあとのフォローについて、数値的なフォローはしているが、一番大きいのが今後の方向性と主な施策に記載している「共通した各種課題の解決を目的とする事業者コミュニティの創出」である。具体的には書いていないが、今年から始めたのが、創業したての人のコミュニティを作り、20社強の企業が参加している。その中で、開業したが、なかなか客が来ない、宣伝方法がわからない、先ほど指摘のあったホームページの充実、SNSの仕方がわからない等の悩みを創業者同士で話し合う場を作っている。そこに、色々な講師を呼んで、実際にこのようにPRすると客が増える、新規のリピーターを増やした方がよいというような具体的なアドバイスをもらいながら、みんなで切磋琢磨する環境を整えている。もちろん運転資金のつなぎの対応を銀行としたいという時に間に入るということもやっている。そのようなコミュニティの中で、お互いの悩みを打ち明けるといったものを作っていく。

⇒（地域創生部長）施策【雇用のミスマッチ解消、地元定着の促進、高校教育機関等との連携】の中小企業等への支援の中で、SNSあるいはメールを活用して、情報発信をすることをもう少し明確にしてはという提案をいただいた。本市としてもウェブを活用した情報発信は、しっかりと認識をしている。そういった中で、例えば、今回、この中小企業等への支援の中では、「ショウナイズカン」に対しての掲載等に支援をするということ意識した施策を準備している。今、この文言だけを見ると、そのようなところが全然見えてこないところがあるので、文言を書き加えるか、言い方を直すような工夫をしたい。それから、働く女性の活躍促進のところ、多様化する事業に対応する保育という括弧書きの中に「子ども食堂」の文言を入れてはどうかという提案について、男性にとっても働きやすい職場環境と記載があるが、これは男性も女性も合わせて、負担になっているところの軽減を図るための保育という趣旨である。その趣旨に子ども食堂という機能が合致するのかどうかは、福祉部門とも相談をしながら判断したいと思う。

⇒（副市長）放課後デイサービスは、保育の括弧内の一つになっているが、障がいのある

学齢期の子どもが放課後に行くところがない、学童保育はあるが、障がいのある子どもたちが行く学童保育が放課後デイサービスである。保育も大分充実してきたが、そこは非常に定員が少ない、もっと増やさないといけないということで、今後、力を入れていきたいということで書いている。子ども食堂は、64 ページの子どもの権利の擁護のところに入っている。私も日経新聞を読んだが、子どもだけの場ではなく、地域コミュニティの核になっているということだったので、子どものところだけでいいのか、もっと広い機能があるのではないかとこのところは福祉部門に確認して、記載を検討したい。

(委員) 第3章「ファンが多く、移住者・定住者・観光客が増加する酒田」の50 ページに移住者対策の推進の施策に、移住者に対する支援、推進の項目があるが、移住を推進するためのアプローチがあるので、成果指標に移住者がこれだけ増えたらいいという指標があればいいと思う。

⇒ (地域創生部長) 移住者数を、移住施策によって移住に繋がったものと、施策を講ずることなく、仕事の異動で酒田に移住するということがあり、なかなか数字の把握が難しいと認識をしている。施策等を通じた移住者数は把握しているので、その成果として、皆さんから理解してもらえるかどうかを確認し、検討していきたいと思う。

(委員) 主な施策についても、労力と金がかかるころだと思うので、それに対して、どれだけの移住者がいたかということは、検証する必要があると感じる。効果がないのであれば、他の方法を取らなければならないと思うので、成果指標として、施策を通じ移住させるというところは必要だと思う。

(委員) 内容は概ねなるほどと読んだ。いくつか質問、感想を述べる。7 ページに居住学区または地域の構成という円グラフがある。ここに、酒田地域54.3%、酒田地域②は12.1%、酒田地域③は16.7%、この数字は一体何なのか。私は川南在住だが、川南の人は、16.7%しか酒田にいたくないという数字になるのか。それぞれ人口が異なる。どう読めばいいのか。

私は連合の役員ではあるが、学校の教員でもある。37 ページの雇用のミスマッチ解消について、新規高卒者県内就職率は、酒田 69.0%、鶴岡 76.7%となっており、他の地域と比べると、ずば抜けて低い。新庄や長井より低いと思うが、他の地域だとそれなりに高校生がまず少ない、人口規模に応じて少ない。例えば、13号線を走るとわかると思うが、米沢から尾花沢まで絶え間なく大きな会社が連なっている。新庄から村山の会社に勤めている、このような人たちも数字に上がっているため、新庄が増えていると私は思う。ここから考えると、やはりまだまだ働くところが少ないのかなという気がしている。その点について、若年層向けの良質な雇用が確保されることが一番の課題だと思っている。

⇒ (企画部長) 7 ページのグラフの「居住の学区又は地域の構成」は、2,500 人にアンケート用紙を送り、回答した総数が1,095人で、この回答者の属性として「居住の学区又は地域の構成」という項目である。「あなたのお住まいの学区または地域はどこでしょうか」という質問をしており、それに対して、酒田地域①は琢成学区から泉学区まであ

るが、そこに住んでいると答えた人が 54.3%で、1,095 人に 54.3 をかけ、大体 590 人が、このアンケートに答えた人のうち、こちらの地域に住んでいる人ということになる。酒田地域②は 12.1 をかけ、大体 130 人ぐらい。それから、酒田地域③は、16.7 をかけ、大体 180 人ぐらいということになる。回答された 1,095 人が、どちらの地域に住んでいるかの割合で示し、グラフで表したものである。説明が足りないので、わかりやすい記載に努めたい。

⇒（地域創生部長）委員の言うとおりの、13 号沿い、特に米沢、山形は 30 分で移動ができるぐらいで、通勤圏内になっているようである。そう考えると、吸収力のある山形、村山地区等に県内就職という枠組みの中で出た数字だと思う。ただ、ここで気になるのは、鶴岡が 76.7%であること。ここについて意見もあったが、我々もどちらかという高校生に地元に残ってもらう方策は何かという視点で施策を講じているが、地元の企業が、高校生、大学生から選ばれるような施策を講じていかなければいけないのではないかと副市長から言われている。具体的にどのようなアプローチの仕方があるのかをこれからしっかり考えていかなければいけないと思っている。こういったところを総合計画の中に、文言として残していくべきだと思っているので、追加する言葉を考えていきたい。

もう一つ昨年から誘致を進めてきたが、IT 関係で、社長が本市出身で、SIG という会社が本市に事務所を開設した。本市で採用された人が首都圏で技術を磨いて、会社として、いつでも本市に帰って構わないと、例えば、両親の介護があるとか、そういったことで、本市に戻りたいという話があればすぐに戻ることができる。こういった魅力的な事業者（企業）も誘致することができている。一旦本市を出るが、戻ることができるという環境である。これを好事例として増やしていければと思っている。

⇒（副市長）地域創生部長が言ったとおり、いつもディスカッションしている。雇用のミスマッチ解消のところ、指摘のとおり、若年者向けの良質の雇用が確保されるよう、あるいは、2 行目、3 行目に、市内外の卒業生に、本市での仕事の選択をしてもらうよう、それから、若年層特に女性に選ばれる企業の雇用環境づくりへの支援を記載している。具体策はこれからだが、働く女性の活躍促進については、「日本一女性が働きやすいまち」を目指したい。女性だけでなく男性も入れて良かったが、男性、女性、若い人たちに選ばれるように、企業も一緒に頑張って取り組もう、みんなで頑張っていこうということである。

（委員）私からは二つ。資料 2 の 34 ページ、先月 6 月のグループ討議の時も話したが、サンロクと商工会議所、商工会との連携について、今回記載されたことは礼を言う。併せて、この成果指標だが、サンロクによるマッチング件数、創業件数とあるが、サンロクを外して、支援機関によるマッチングの件数、創業件数という対応ができないか。それからもう 1 件、38 ページ。これも前回発言したと思うが、成果指標の職場家庭における不平不満を感じる割合は、非常に不明瞭、曖昧、漠然としていると思う。えるぼし認定や、子育て応援企業の数、障害者雇用率が適切なのではないかと思います。

⇒（産業振興調整監）サンロクによる件数と支援機関の件数のどちらも記載してはどうか

という意見だが、議論がまだまとまっていない。これが市の計画であることから、市の機関の件数を書くというのが一つの案と、関係機関の件数も書いてはどうかというの、まだ内部でまとまっていない。

⇒（企画部長）支援機関というのは、酒田商工会議所やふれあい商工会がマッチング、創業の支援をした件数も足すという中身になるのか。毎年、成果指標として数字を出すはその数は把握可能ということによろしいか。

⇒（委員）大丈夫である。

⇒（企画部長）サンロクと重複することはないか。

⇒（委員）サンロクに流す場合もある。独自にマッチングや創業支援を自分たちの事業としてやる場合もあるが、重複はしないと思う。

⇒（企画部長）内部で検討したいが、その下に記載の年間商品販売額や、製造品の出荷額は民間の指標だ。行政だけの数字を載せるべきかということ、それだけではないとは思っているので、数字の確認のやり方や指標の設定が、政策なり施策の指標として適正なものであるという考えになれば、そういったものを指標にしてもいいと思う。内部で検討したい。支援機関は最初のところで「酒田商工会議所及び商工会等」となっているが、それ以外、例えば農協や漁協とかその辺も入るか。

⇒（委員）それもあろうと思う。

⇒（企画部長）西村委員は漁業者になりたい人の相談等受けているが、数は把握しているか。

⇒（委員）漁協は把握している。

⇒（企画部長）袖浦農協はその数字を押さえているか。

⇒（委員）今まで意識して数えたことはない。

⇒（企画部長）どこまでの範囲を拾えるかというところもあるかと思うので、内部で検討する。

⇒（地域創生部長）働く女性の活躍促進の成果指標で、二つ項目があり、職場における男女の不平等を感じる割合、同じく家庭もあるが、アンケートで数字を把握しようというものである。不平等と感じている度合いが人それぞれ違うということもあるし、それが数字として出した時に、成果指標として適切かどうかというところは、なかなかその信憑性なども含めて難しいところがあるかと思うが、市民の思っているところをアンケートで数値化するというものなので、それを成果指標にして目標にしながら、どこまでそれを文字化するかというところで目標としている考え方なので、これを別の指標に置き換えるということもなかなか難しいところと考えると、アンケートから導き出しということで、この数字、この成果指標は残していければと思っている。

（委員）さっき言った通り非常に漠然としている。つかみどころがないというか。アンケートなので感じ方だ。成果指標は、私はある程度数値で表せるものだと理解している。確かにこのアンケートの数字も数値だが、いかがなものか。

⇒（副市長）意見は、前回聞いていた。ここの部分だけではなく、例えば64ページは、子育て・保育のところだが、成果指標は「希望通りに子育て支援事業を利用できたと感じ

る割合」とか、74 ページも「景観形成重点地域の景観によい雰囲気と感じている市民の割合」ということで、男女平等のところに限らず、酒田市役所に限らず、究極の成果は、市民が幸せに感じる、すごく酒田が良かったと思うことだということ。どの自治体でも、市民の満足度調査は、毎年やっているところもある。これは統計的に処理をするので、統計学的に意味のあるくらいの規模でアンケートをとって、その結果ということなので、割と一般的に行われている。究極の成果は市民が満足しているかどうかというところで、男女平等、或いは景観が美しい、子育て支援がよかったなど、割合をとる指標になっていて、男女共同参画推進計画の中でも、同じ指標が使われて達成度ということになっている。だから男女平等のところに限らない、究極の酒田市政の評価指標で、酒田市役所に限らず全国 1700 の自治体で使われている手法である。

(委員) 内容に関しては問題ないが、観光の面から質問がある。コロナの影響もあり、これまでマイクロツーリズムがターゲットとして重視されていたかと思うが、現在外国人観光客の入国が再開され、まだルールが厳しいのでそれほど数は多くないが、弊社でもリクエスト、予約が入っている状況で、これからインバウンドは必ず戻ってくると思うが、あまりインバウンド、外国人旅行者に関しては記載がないと思った。今後、酒田市としてはどのように、こういったインバウンドに取り組んでいくのかということと、ジオガイドや街歩きガイドの体制充実とあるが、せっかく登録している北庄内地域通訳案内士の制度があまり活用されていないと思ったので、そういったところも記載したらどうかと思う。

⇒ (地域創生部長) インバウンドの回復は、当たり前と言えば当たりの時代になってくるかと思っている。話のあった北庄内地域通訳案内士などのスキルアップ事業など、ここ 2 年間、様々行ってきたところだ。そういった事業を踏まえながら、当然英語圏もそうだし、国内、台湾だとか、そういったところも含めて、インバウンドのターゲットにしていく。同時に国外の客だけではなく国内にいる外国人を取り込んでいく。台湾は、可能であれば国内の教育旅行も含めて、台湾から教育旅行の誘致にも努めていきたいと思っている。それから、二つ目の、北庄内地域通訳案内士の記載がないというところだが、確かにその通りで抜けていたと思った。もう一度そこは点検をしながら、インバウンドの際の活躍の場となるので、しっかり考えていきたい。

(委員) 私も中身に関しては、本当によく皆と意見を出し合い、内容にも反映されていると思うので発言するのが忍びないところもあるが、例えば 6-2 あたりとか、今後の方向性と主な施策は、文書で書いてある部分になる。なかなかこういったものを数値化するのは難しいこともあるかと思うが、この 6-2 に限らず、今回の内容すべてにおいて言われると思うが、市民が具体的に想像できたり、効果を実感できたりという内容であってほしいと思っている。全部、市民が網羅して理解することはなかなか難しい内容も多いので、市民一人一人が効果を実感できるものであればいいかなと思った。6-2 は、先日公共施設で Wi-Fi がなくて苦勞することが多いので言ったが、結局は効果が実感できるものであってほしいと思っている。

(委員) 先ほど成果指標の話があったが、私も 38 ページの職場における男女の不平等を感じる割合について、指標という文言だが、満足度というふんわりとしたものになっているのが気になる。この項目であれば、働く女性の活躍促進なので、例えば、37 ページ左下の男性を 100 とした場合に女性の水準、年齢別の水準の格差の縮小度合いをここの指標にするとか、それ以外のページでもふんわりとした満足度だったり不満の解消とか、そういった回答した人によってぶれる指標ではなく、満足度が上がれば必然的に、例えば利用者数が増えるとか、移住者が増えるとか、金額が上がるとか、具体的に数値は見えると思うので、成果指標に関しては、もう少しどの項目においても、数字で見えるものに変えた方がいいのではないかなと考えた。

⇒ (副市長) ちょうど左に載っているのですが、この格差縮小という指標も両方あってもいいと思った。市民満足度指標は割といろんな自治体で使われていると言ったが、民間事業所の方から見ると、曖昧だと思われるということが分かったので、できれば両方書ければいいと思った。

(委員) 今、気がついたところだが、26 ページ。文化芸術活動は、この部会であまり話題にならないところだが、一昨年から、高等学校で芸術鑑賞をやめた。芸術鑑賞会は、市民会館を使って演劇や音楽や歌舞伎などいろんなことをやって、生徒に親しませる機会を設けていたが、今やっていない。やらない理由はいろいろあって、経費の問題や、準備する教員の大変さ、大したことはないが、そういうようなことでやらなくなって、ちょっと寂しい思いをしている職員もいるし、本当にこれでいいのかという声もある。いろんな考え方はあると思うが、市として、そういう状況をどのように捉えて、どうしたらいいのかと考える。例えば、各学校に、これについてどうかというような意見も聞いたりとか、そのようなことをしてもらおうと、この学校におけるというところが、より具体になるのではないかなと思う。

⇒ (副市長) 高校については今、現状を聞いたので、なるほどと思ったが、小中学校については、ここにあるスクールプログラム、或いは学校でアウトリーチということで、こちらから提案して手を挙げてもらって、大好評だ。いろいろと大変だろうが、やってみると良かったという評価だと思うので、それが高校できればいいが。どうしたらいいか、考えていきたいと思う。

7 その他

(委員) この内容については先ほど言った通り、大変うまくまとまっていると思う。酒田市の難しいところの一つに、港のことがある。私たちは漁業の世界、港を使うので、割と私は港の部分について詳しいと思っている。でも、酒田市に何人、港のことに詳しい人がいるのかというところ。これはいつも市長、副市長にも話をしているので、そういう点は理解してもらっていると思う。ただし、やはりこういう計画を作る上で、酒田港、湊町酒田と

いうところで、港は酒田市にあるが、酒田市の港ではない。市長や副市長の権限がある港ではない。県や国の機関の管理のものではない。やはり、港を何とかしようと言ったときに、市長の権限でどうにかなるものではないということがあって、例えば企業誘致だとか、運営をすることについても苦労している。一つ、決定的なことを言う。日本海側で、男鹿半島から下（南）の方でずっと港をグーグルアースで見ると、港の港口が南西を向いている港は酒田港しかない。それはなぜかという、酒田は昔から北西の風を嫌った。だから、北西の港口をふさいで、南西に港口を開けているが、漁師の世界から言うと、南西の風と、波ほど恐ろしいものはない。酒田北港の奥で荷役作業をする船が、普通の港に行くと、例えば男鹿半島を超えて能代港に行くと、3日で終わるものが、1週間もかかったりする。そうすると、その港は嫌われる。そういうところが今まで明らかにされてこなかった。私は、この計画の内容は本当に素晴らしいと思っていて何も言わなかったが、ただ、やはり酒田市が困っているところは、これだけの人が集まっているので（話した）。酒田港のところに港湾事務所があるが、「港湾事務所は何もしてくれない」と言わないと、多分私以外わからないと思う。激動している昨今なので、何かあったときに洋上風力の話もあるので、こと港に関しては、すぐ対応できるような体制をとっておかなければいけないと思うので、最後一言話した。

⇒（副市長）36 ページに書いているが、書き方が非常に難しく、酒田港の機能強化、利用拡大についても、国、山形県に対して働きかけるといような、或いは山形県等と連携して、或いは国等に対して働きかけるといような表現になっている。西村委員の言う通りだ。港のことを言ってもらったが、港のことに限らず、いつも私が庁内で言っているのは、決して市役所単独で実現できる目標ではもちろんない。実際、民間事業所が実施していることの方が大きな影響力がある。それがなければ何もできないということだが、それを全部書ききれないので酒田市役所としてはこんな方向性だということを示しているだけで、成果指標一つとっても、市役所が市役所の力だけでできるものではなく、地域の力がなくては、元からそういうことになっているので、そのことを忘れないような書きぶりにしようと言っている。港のことはわかりやすいので、しっかりと書いてあるが、その他の部分はまるで市役所が全部できるような書きぶりになっている。本当は地域でいろんなことが行われて、活動があるのに、市役所の目線でしか書けていないところがあるので、気づいた時は言うようにしているが、本当に委員の言う通りだと思うので肝に銘じたい。委員は、それぞれの分野の専門家の市民として参加してもらっている。力を借りたい。指導してもらいたい。

○連絡事項（事務局より）

次回の部会の日程は、8月下旬に審議会（全体会）として開催する。

8 閉会

以 上